

| | |
|--------|--------------------------|
| 科目名 | 訪問介護員養成研修2級 介護概論 介護実技・実習 |
| 授業形態 | 講義・演習 |
| 開講時期 | 2年後期 |
| 時間数・単位 | 130時間・4単位 |

【学習目標】

- ①歯科医療において高齢者歯科や訪問歯科診療が多いため、高齢者に対する理解を深めるとともに介護の知識、技術を習得し高齢者への対応能力を養う
- ②介護や福祉に対する知識、心構え、職業倫理等を学ぶ
- ③基本介護技術演習において技術の基本を習得し要介護者の体験を通じて介護される側の理解を深める。更に訪問介護員の在り方や介護の在り方を学ぶ
- ④施設実習において講義と演習で学習した内容を現場実習で確認し、福祉について理解を深める

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|-----|---------------------|---|---|
| 1 | 多様なサービスの理解 | 介護保険サービス(居宅、施設)、介護保険外サービス | |
| 2 | 職務の理解 | 介護職の仕事内容や働く現場の理解 居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 | これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる |
| 3-4 | 介護における尊厳の保持・自立支援 | 人権と尊厳を支える介護 ①人権と尊厳の保持 ②ICF ③QOL ④ノーマライゼーション ⑤虐待防止・身体拘束禁止 ⑥個人の権利を守る制度の概要 | 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している |
| 5 | 自立に向けた介護 | ①自立支援 ②介護予防 | |
| 6 | 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | ①介護環境の特徴の理解 ②介護の専門性 ③介護に関わる職種 | |
| 7 | 介護の基本 | 介護職の職業倫理 職業倫理(専門職の倫理の意義、介護の倫理、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重) | ①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に基づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している ②介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる |
| | | 介護における安全の確保とリスクマネジメント ①介護における安全の確保 ②事故防止、安全対策 ③感染対策 | |
| | | 介護職の安全 介護職の心身の健康管理(介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策) | |
| 8 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 介護保険制度 ①介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ②仕組みの基礎的理解 ③制度を支える資源、組織・団体の機能と役割 | 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる |
| 9 | | 医療との連携とリハビリテーション 医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念 | |
| 10 | | 障害者自立支援制度およびその他制度 ①障害者福祉制度の理念 ②障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ③個人の権利を守る制度の概要 | |
| 11 | 介護におけるコミュニケーション | ①介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ②コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ③利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 | 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められている事を認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している |
| 12 | 介護におけるチームのコミュニケーション | ①記録における情報の共有化 ②報告 ③コミュニケーションを促す環境 | |
| 13 | 老化の理解 | 老化に伴うこととからだの変化と日常 ①老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 | 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している |
| 14 | | 高齢者と健康 ①高齢者の疾病と生活上の留意点 ②高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 | |
| 15 | 認知症の理解 | 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念(パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点) | 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している |
| 16 | | 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 | |
| | | 認知症に伴うこととからだの変化と日常 ①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ②認知症の利用者への対応 | |
| 17 | 障害の理解 | 障害の基礎的理解 ①障害の概念とICF ②障害者福祉の基本理念 | 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している |
| | | 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識 ①身体障害 ②知的障害 ③精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) ④その他の心身の機能障害 | |
| | | 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援(障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減) | |

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|------------|----------------------------------|--|--|
| 18 | 介護の基本的な考え方 | 理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護 | ①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する |
| 19 | 介護に関するところのしくみの基礎的理解 | 学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、ところの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がところに与える影響 | |
| 20-21 | 介護に関するところのしくみの基礎的理解 | 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ところとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点 | |
| 22-23 | 生活と家事 | 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 | |
| 24-25 | 快適な居住環境整備と介護 | 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 | |
| 26-27 | 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 | |
| 28-30 | 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 | |
| 31 | 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 | |
| 32-34 | 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 | |
| 35-36 | 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 | |
| 37 | 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 | |
| 38 | 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護 | 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 | |
| 39 | 介護過程の基礎的理解 | 介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ | |
| (39) 40-42 | 総合生活支援技術演習 | 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得 | |
| 43 | 振り返り | 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点 | 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる |
| | 就業への備えと研修終了後における継続的な研修 | 継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例を紹介 | |

【評価方法】

筆記試験

【参考図書等】

介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解(第4版)」(日本医療企画)

介護職員初任者研修課程テキスト2「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解(第4版)」(日本医療企画)

介護職員初任者研修課程テキスト3「ところとからだのしくみと生活支援技術(第4版)」(日本医療企画)

【実務経験】

| | |
|--------|-----------|
| 科目名 | 行動科学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 2年後期・3年前期 |
| 時間数・単位 | 15時間・1単位 |
| 授業担当者 | 吉嶺 真一郎 |

【学習目標】

歯科医療の本質と患者の心理を学ぶ

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|-------------|---------------------|---------------------------------|
| 1 | 歯科治療全般 | 歯科衛生士から見た歯科治療の本質 | 歯科治療とは何かを理解する |
| 2 | カリエス治療 | カリエス治療と歯科衛生士との関わり | かかりつけ衛生士としてカリエスの患者への対応を理解する |
| 3 | 歯内治療 | 根管治療と歯科衛生士との関わり | 根管治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける |
| 4 | 歯周治療 | 歯周治療と歯科衛生士との関わり | 歯周治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける |
| 5 | 小外科治療 | 外科治療と歯科衛生士との関わり | 外科治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける |
| 6 | インプラント治療 | インプラント治療と歯科衛生士との関わり | インプラント治療を理解し、患者に適切な対応する能力を身につける |
| 7 | インプラント手術の実際 | インプラント手術の実際と患者対応 | インプラント手術時の患者対応を理解する |
| 8 | 外科手術の実際 | 外科手術の実際と患者対応 | 外科手術時の患者対応を理解する |

【評価方法】

レポート

【参考図書等】

「患者を動かす 行動歯科学による歯科恐怖へのアプローチ」Ph.Weinstein他著(クインテッセンス出版)

【実務経験】

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

| | |
|--------|---------------------------|
| 科目名 | 音楽 |
| 授業形態 | ピアノ伴奏によるボイストレーニング、合唱、一般教養 |
| 開講時期 | 1年前期・1年後期 |
| 時間数・単位 | 30時間・1単位 |
| 授業担当者 | 井谷 桃 |

【学習目標】

音楽の授業を通して自己表現力や一般教養を身につける

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|---------------------------|--|--|
| 1 | ①発声 ②基本体操 ③校歌と合唱曲の譜読み(合同) | 発声、基本体操、「校歌」「心の瞳」の合唱 | 発声の仕組みを知る、基本姿勢を身につける 「校歌」「心の瞳」の譜読みをする |
| 2 | 楽譜の意味の説明、合唱(合同) | 楽語の用語の説明、「校歌」「心の瞳」の合唱 | 楽譜の意味を理解した上で、「校歌」「心の瞳」2曲を歌えるようになる |
| 3 | 「校歌」と「合唱」 | 歯科衛生士科と歯科技工士の学生にそれぞれ指揮してもらい、自分たちの力で合唱をする | 合唱のハーモニーを楽しみながら、「校歌」を暗譜、「心の瞳」の1番を仕上げる |
| 4 | 混声合唱の仕上げ | 校歌を最後まで暗譜で歌えるようになる グループ別発表 | グループ別に発表し、合唱の多彩なハーモニーを味わいながら大きなスケールで歌う |
| 5 | クラシック音楽史について | クラシック音楽の歴史を知る | 「クラシック音楽」とは、一般教養としておおまかな歴史を知る |
| 6 | 舞台芸術について | 舞台芸術を鑑賞、違いや魅力を知る | オペラ・オペレッタ・ミュージカルの代表的な作品を鑑賞し、違いや魅力を学ぶ |
| 7 | My Favorite Songs | 自分の好きなアーティストや曲を研究発表する | 自分の好きなアーティスト、曲の内容を理解し、掘り下げ、皆の前でプレゼンする |
| 8 | 女声合唱 | ①365日の紙飛行機 ②涙そうそう ③ふるさとの3曲を歌う | 皆でまず斉唱で歌ってみる その後パート分けをする |
| 9 | 合唱の復習 | 前回の曲の復習と歌う姿勢、口の開け方など個別指導 | 歌う姿勢、口の開け方など個別に指導しながら練習を進める |
| 10 | 詩とメロディーに気持ちを込めて歌う | パート別により歌いこんでいく その後グループ分け | パート別に分かれて練習したのをコーラスに仕上げることでハーモニーの美しさをより深く味わう |
| 11 | グループ練習 | 分けたグループごとに練習ごとに練習を進める | 自分達でグループごとに練習を進めることにより自主性と協調性、積極性を学んでいく |
| 12 | 校歌・これまでの曲の中からの復習 | グループ別練習に加え、「校歌」、「仰げば尊し」の練習 | これまでの練習と、卒業に向けて「仰げば尊し」も加える |
| 13 | 試験に向けてポイントを確認 | 試験曲の発表と、実技、筆記のポイントを整理、確認する | グループ別の発表に向けて、発表曲の再確認と練習 |
| 14 | 試験実施① | グループ別発表、個人発表、筆記試験の実施をする | 主に、筆記、個人発表をする 思い切り歌いきる |
| 15 | 試験実施② | グループ別発表、個人発表、筆記試験の実施をする | 総仕上げとして、グループで協力すること、自分自身の表現として発表すること 自信と礼節をもって発表し1年を締めくくる |

【評価方法】

グループ発表、個別発表、筆記

【参考図書等】

配布物プリント(楽譜)、CD鑑賞

【実務経験】

| | |
|--------|--------------------------------|
| 科目名 | 体育 |
| 授業形態 | 講義・運動 |
| 開講時期 | 1年・2年・3年 |
| 時間数・単位 | 40時間・1単位(畠中先生の時間数と合わせて3年間での数字) |
| 授業担当者 | 大迫 洋子 |

【学習目標】

バドミントンの愛好者として学生→社会人になっても体力づくりとして続けていき健康で長生きをめざす
講義や言葉つむぎを通して心をいつもリフレッシュにし、美しい女性を目指す

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|------|-----------|--|--|
| 1-2 | 楽しいバドミントン | ウォーミングアップとストレッチ/バドミントンにふさわしい足の運び方 | 全員楽しくフットワークが出来る/正しいラケットの握り方が全員出来る |
| 3-4 | 楽しいバドミントン | 基本ストローク練習(ドロップ・カットレシーブ・ハイクリアー・ドライブ・スマッシュ～プッシュ・審判とゲームの進め方・楽しいダブルスゲーム) | ストロークは奥が深いがやさしい基本で強くなれる 全員ローテーションを覚えられる |
| 5-6 | 楽しいバドミントン | 基本ストローク練習(ドロップ・カットレシーブ・ハイクリアー・ドライブ・スマッシュ～プッシュ・審判とゲームの進め方・楽しいダブルスゲーム) | ストロークは奥が深いがやさしい基本で強くなれる 全員ローテーションを覚えられる |
| 7-8 | ソフトバレー | ソフトバレーでチームワークと元気づくり(6人チーム) | ソフトバレーを通してチームワーク作りと体力づくりを行う |
| 9-10 | ソフトバレー | ソフトバレーでチームワークと元気づくり(6人チーム) | ソフトバレーを通してチームワーク作りと体力づくりを行う |

【評価方法】

高校でのバドミントン部活の方々とは、はじめてのラケットを握る方とは格差があるでしょう。初めの方は上手下手を言わない
体力づくりと仲間づくり～心のよりどころにして学業にも励みましょう

【実務経験】

| | |
|--------|--------------------------------|
| 科目名 | 体育 |
| 授業形態 | 講義・実技 |
| 開講時期 | 1年前期・1年後期 |
| 時間数・単位 | 40時間・1単位(大迫先生の時間数と合わせて3年間での数字) |
| 授業担当者 | 畠中 和子 |

【学習目標】

自主的・積極的に運動習慣を身につける

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 1 | 現状の自分の体の状態 | 正しい姿勢、筋持久力、軟捷性、バランスを測定 | 正しい姿勢方法を把握し、運動の必要性を理解する |
| 2 | 体力作り運動 | ストレッチ→有酸素運動→筋トレ→リラクゼーション | 正しい体の動かし方で楽に踊れる方法を習得する |
| 3 | 寒い時期の運動方法① | 手具を使ってのスポーツ競技 | コアを意識する |
| 4 | 寒い時期の運動方法② | サーキットトレーニング | 効果的な脂肪燃焼の理解 |
| 5 | スポーツ競技 | 体力測定①と理論の確認テスト | 運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける |
| 6 | 運動の習慣化 | *一人で出来るストレッチ・ウォーキング・筋トレ *体力測定②と理論 | 自主的に行う |

【評価方法】

筆記と実技試験

【参考図書等】

「らくらくストレッチ」小鹿有紀・宮尾昌明著(日東書院)

【実務経験】

| | |
|--------|--------------------------------|
| 科目名 | 体育 |
| 授業形態 | 講義・運動 |
| 開講時期 | 2年前期 |
| 時間数・単位 | 40時間・1単位(大迫先生の時間数と合わせて3年間での数字) |
| 授業担当者 | 畠中 和子 |

【学習目標】
安全な方法で体力作りをしよう

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|--------|-----------------|-------------------------|
| 1 | 体力作り運動 | ストレッチ⇒有酸素運動⇒筋トレ | 運動方法の把握 |
| | | 体組成の測定 | 1年時と比較 |
| 2 | 団体競技 | 手具を使ってスポーツ競技① | 体力づくり運動 |
| 3 | 団体競技 | 手具を使ってスポーツ競技② | 身近にある物を使って日常生活に運動を取り入れる |

【評価方法】
出席状況、受講態度で評価

【実務経験】

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 科目名 | 体育 |
| 授業形態 | 講義・運動 |
| 開講時期 | 3年前期 |
| 時間数・単位 | 40時間・1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間) |
| 授業担当者 | 畠中 和子 |

【学習目標】
健康管理の方法について学ぶ

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|------------|---------------------------|------------------|
| 1 | 健康づくり・体力向上 | ストレッチ・有酸素運動・コアトレ・リラクゼーション | 生活習慣に運動の取り入れ方を学ぶ |

【評価方法】
出席状況、受講態度で評価

【実務経験】